

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2025年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業261社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業42、運輸・倉庫業20、観光業44
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：138社（52.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－売上DIはプラス水準であったが採算DIは2期連続、業況DIは13期ぶりのマイナス水準に－
前年同期（2024年7月～9月）と比べた今期（2025年7月～9月）の状況
今期と比べた来期（2025年10月～12月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは▲7.6で、前年同期比で16.9ポイント低下しました。主要3項目の売上DIは14期連続でプラス水準で推移しましたが、業況DIは13期ぶりにマイナスに転じ、採算DIは2期連続でマイナス水準で推移しました。来期は、業況DI、売上DI、採算DIの主要3項目全ての低下が予想されています。

製造業では、売上DIが前年同期比6.2ポイント上昇の0.0、採算DIは同8.9ポイント低下の▲21.4でした。業況DIは同13.8ポイント低下の▲10.7ポイントとなりマイナスに転じました。

卸売業では、売上DIが同23.0ポイント低下の▲7.2、採算DIは同21.5ポイント低下の▲21.5、業況DIは同27.1ポイント低下の▲21.5となり、いずれもマイナスに転じました。

小売業では、売上DIが同43.1ポイント低下の▲31.3、採算DIは同44.1ポイント低下の▲50.0でした。業況DIは同25.0ポイント低下の▲25.0となりマイナスに転じました。在庫数量DIについては同11.8ポイント低下し0.0となりました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同18.3ポイント上昇の33.3、採算DIは同38.7ポイント上昇の18.7でプラスに転じましたが、業況DIは同0.8ポイント低下の12.5となりました。在庫量DI、出庫量DI、保管残高DI、いずれも40.0ポイント以上の大幅な上昇となりました。

観光業では、売上DIが同15.5ポイント低下の16.7、採算DIは同41.1ポイント低下の▲25.0、業況DIは同42.6ポイント低下の▲8.3となり、いずれもマイナスに転じました。

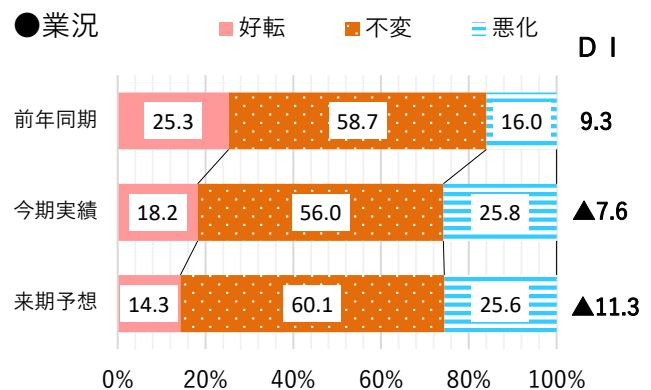
サービス業では、売上DIが同14.0ポイント上昇の35.0、採算DIは同36.0ポイント上昇の15.0となりプラスに転じました。業況DIは同15.0ポイント上昇の15.0となりました。利用客数DIについては同35.5ポイントの上昇で、25.0ポイントとなりプラスに転じました。

建設業では、売上DIが同38.7ポイント低下の▲30.0となり、採算DIは同20.7ポイント低下の▲25.0、業況DIは23.7ポイント低下の▲15.0となり、いずれもマイナスに転じました。

業況、売上、採算

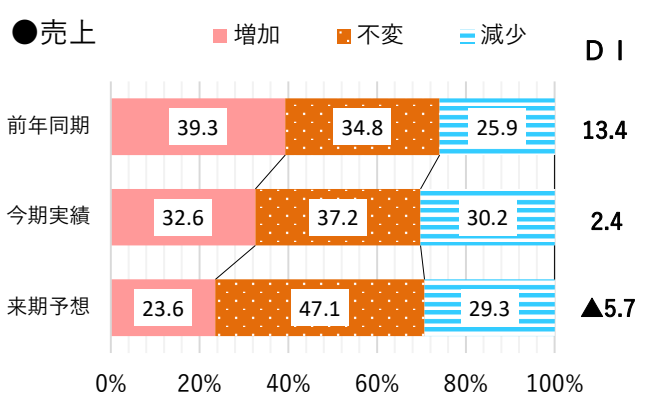
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲7.6で、前年同期（2024.7～9）と比べ16.9ポイント低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ3.7ポイント低下すると予想しています。



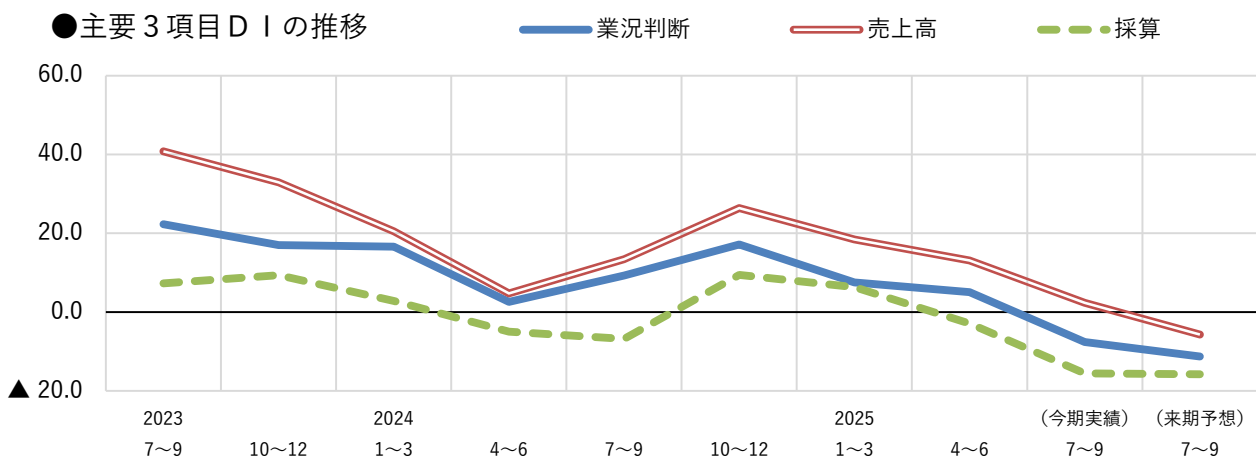
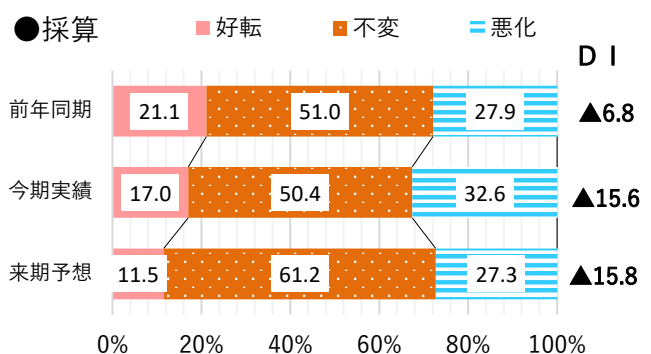
今期の売上DIは2.4で、前年同期と比べ11.0ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ8.1ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲15.6で、前年同期と比べ8.8ポイント低下しました。

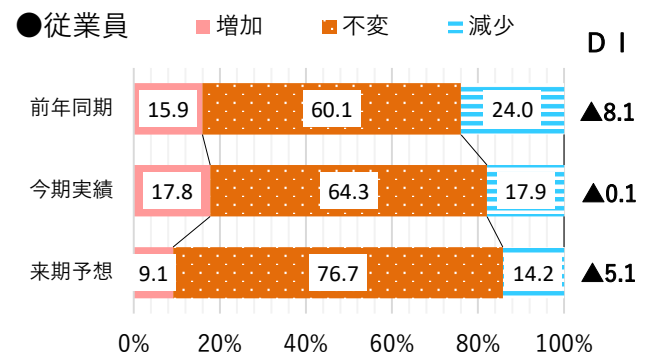
来期の採算DIは今期と比べ0.2ポイント低下すると予想しています。



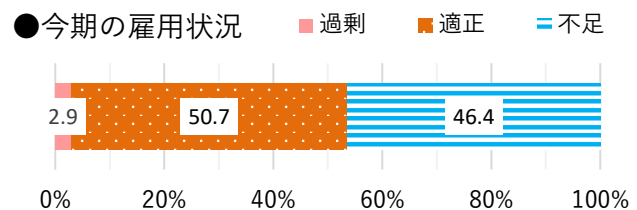
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲0.1で、前年同期と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ5.0ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.9%、適正であると回答した企業の割合は50.7%、不足していると回答した企業の割合は46.4%でした。



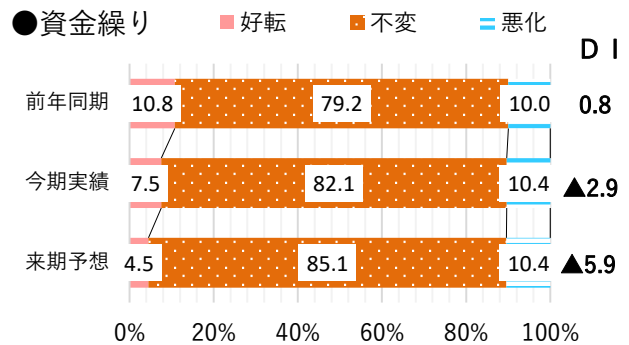
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、41.3%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	3
	適正	9
	不足	13
不変だった	過剰	1
	適正	57
	不足	30
減少した	過剰	0
	適正	4
	不足	21

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲2.9で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ3.0ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は、48.6%が実施と回答し、前年同期と比べ2.7%上昇しました。

投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具・輸送機材」、3位が「建物」の順でした。

来期は37.0%が設備投資を計画していると回答しています。

